

コスモスだより



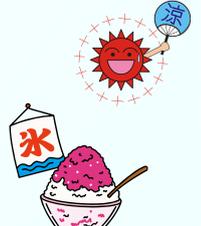
NO.65 平成 27 年 8 月 10 日発行

私たちは、「安全・安心・満足」3S の理念の下に、ご満足いただけるサービス提供を目指します。

介護老人保健施設 コスモス苑
 大分市東鶴崎 2 丁目 3 番 22 号
 TEL : 097-527-2660

つるっと! ところてん!!

コスモス苑夏の風物詩のひとつ、ところてん作り。今年も、入所者様が力いっぱい突き出して、おいしいところてんを食べられていましたよ。口元から涼しく～ですね!



戦後70年 平和への祈り

終戦して 70 回目の夏を迎え、昨年につき、今年もご入所者様の戦争体験を教えてくださいました。大きな転換期を迎えている日本の、決して忘れてはいけない記憶たちです。

津久見の四浦に住んでいて、戦時中は小学生だった。四浦は空襲には合わなかったけど、保戸島が空襲にあって、燃えているのがよく見えて怖かった…。
 Y・K 様

17 歳の時から陸軍の戦車とかを造っていた小倉工場で働いていて、戦争が始まった時は 21 歳だった。高城から徴用されてね。工場は空襲で狙われるから、小倉から中山香に工場ごと疎開したんじゃ。だんだん戦車を満身に造れないくらい材料がなくなり、戦局の厳しさを感じていたよ。
 T・I 様

戦時中は 23 歳くらいで、学校の先生をしていたよ。授業中に空襲警報がなったら、生徒を教室の隅に集まらせて静かにしちよった。当時、旭化成の防災部に生徒は所属していて、敵機がきたら知らせなきゃいけないかった。戦争は絶対にもう、嫌じゃ! T・H 様

小学 4 年から女学校 1 年くらいまでが戦争中でした。父が朝鮮で教師をしていたので、朝鮮にいたんよ。そんな父も赤紙が来て、母と妹と心細かった。父の学校の卒業生たちが日本に留学とかして、彼らから原爆投下と日本の壊滅的な被害を聞き、衝撃だった。38 度線を目指して必死で歩き、貴重品を兵隊に渡して何とか(今の)北朝鮮から南に渡ったよ。 K・M 様

滋賀県の飛行場に父が勤めていたから、戦時中は滋賀県にいたんよ。空襲がよくあったけど、比叡山のお陰で敵機の爆弾が琵琶湖に落ちて助かった。父の弟が戦死したよ…。父も海軍に徴集されたけど、なんとか助かり。戦後に家族で北海道に渡って苦労した。 M・M 様

東鶴崎今昔物語～北川園～



ザ! 達人 No. 62 佐藤淑子様

今回は、お茶の北川園さんをお尋ねしました。北川園さんは、明治 38 年創業、110 年の歴史あるお茶屋さんです。初代 北川菊蔵氏が、当時の日本輸出品の 1 位と 2 位だった、生糸業とお茶を同時に始められたのが最初です。九州は結納の品をお茶屋さんが揃える風習があり、そういった品も取り扱っています。昭和 38 年の大洪水では、お店の 1 階部分までつかったそうです。

現在、4 代目の卓郎さんは「日本茶インストラクター」の資格を持ち、施設や研修などでおいしいお茶の入れ方を教え

たりもしていらっしゃいます。また、7 年前から店内で抹茶パフェやソフトクリームも食べられるようになっており、くつろぎの場となっています。

佐藤さんは、洋裁師として働かれていた方です。別府の北浜に当時いた先生に師事し、洋裁や刺繍をよくされていたそうです。別府には進駐軍の外国人さんが沢山いて、ドレスや背広なども多く手掛けたそうです。製図からすべてご自分で行き、すべて手縫いで、背広の襟のはざし(しつけのこと)も全部されていたそうです。趣味は歌を歌う事だったよ! と笑顔でお話して下さいました。

